英語面接テスト（入試・英検直前形式）【生徒用・課題カード】

Class_____ No._____ Name_______________________

🎯 **ゴール:** 入室から退室まで、面接の流れ全体を英語のマナーでやり切れる

場面 **高校入試・英検二次と同じ形式の模擬面接。ノックから退室までが試験時間——「英語のふるまい」ごと評価します。**

流れ: ノック→May I come in?→着席→質問4問（自己紹介系2＋意見系1＋逆質問対応1）→退室 Thank you very much. 質問例: Tell me about your school life. / What do you want to do in high school? / Do you have any questions?（←ここで自分から1問！）
聞き取れないとき: I'm sorry. Could you say that again?（減点ではなく加点！）

準備 **テストまでにすること（授業1回＋ペア練習）**

頻出質問10のリストで週2回ペア面接（面接官役も交代＝質問する側の経験が答える力になる）。入退室のマナーを1回通す。

本番 **時間: 1人3分　／　評価: 4観点×3段階（12点）**

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか（いちばん大事！）
正確さ	応答文の文法・間接疑問等の運用
流暢さ	止まらずに続けられたか（完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力）
態度・やり取り	入退室マナー・姿勢・聞き返し・逆質問

✓ 聞き返し（Pardon? / One more time, please.）は減点ではなく**加点**。本物の会話の技だから、遠りょなく使おう。

英語面接テスト（入試・英検直前形式）【教師用・ルーブリックと運用】

12点満点（4観点×3段階）

ねらい　このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	形式的な対話の場で、マナー・応答・質問を含む一連の振る舞いをやり切る力
なぜ必要か	高校入試の面接・英検二次と完全に同形式にすることで、評価がそのまま受験準備になる。「聞き返し・逆質問＝加点」の設計は、面接を「テストされる場」から「対話する場」へ再定義し、本番での沈黙固まりを防ぐ最大のワクチンになる。

評価　ルーブリック（B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める）

達成	A（3点） 全質問に内容ある応答＋自分からの質問で対話になった	**B（2点）＝評価規準** 4問に応答し、面接の流れをやり切った	C（1点） 応答が単語のみ・流れが止まる
正確さ	A（3点） 応答の文法が安定	**B（2点）＝評価規準** 誤りはあるが十分通じる	C（1点） 通じない誤りが多い
流暢さ	A（3点） 自然な間で会話が流れる	**B（2点）＝評価規準** 考える間はあるが続く	C（1点） 沈黙で進行不能
態度	A（3点） マナー・視線・聞き返し・逆質問まで完備	**B（2点）＝評価規準** マナーと応答姿勢がおおむね良好	C（1点） 面接姿勢になっていない

✓ C→Bの手立て: 質問リストを事前完全公開にして再挑戦（本番前の自信づくりを優先）

運用　当日の流れ（3コマ（他生徒は過去問演習））

1	ルーブリック（このページ）のB列を一読してから開始――「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード（1ページ目）の場面と評価観点を全体で確認（2分）。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施（1人3分）。採点はその場で記録シートに〇をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ（よかった表現を1つ書く）または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める（次回への空気づくり）

☆運用のコツ 12月～1月の実施が効果最大（入試直前・英検二次と直結）。廊下で待つ生徒に「次の人の面接を観察してメモ」を課すと、待ち時間も学習時間になります。

英語面接テスト（入試・英検直前形式）【採点記録シート】

実施日＿＿＿＿＿　クラス＿＿＿＿

記録　その場で〇をつけるだけ（A=3 B=2 C=1）

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ（次への一言）
＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。

学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）